

公募制推薦入学試験

〈出典一覧〉

日 文	ドナルド・キーン	『古典を楽しむ 私の日本文学』	朝日選書
心 理	内閣府男女共同参画局	令和3年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究 調査結果（令和3年9月30日内閣府 HP 発表）	
		https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r03.html	
福 祉	厚生労働省	「児童虐待防止対策 児童虐待相談対応件数の動向」「令和元年度児童虐待相談対応件数」（ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/dv/index.html ）一部改変	
福 祉	法務省法務総合研究所	令和2年度版 犯罪白書 p.173	
初 教	文化庁地域文化創生本部	文化に関する世論調査報告書（2021年）図 Q8-1	
		https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/93040901_01.pdf	
安 全	厚生労働省	令和元年度 国民健康・栄養調査「あなたの食生活に影響を与えている情報源はどれですか」一部改変	
ビジネス	日本経済新聞2019年12月10日	「価格が映す日本の停滞 ディズニーやダイソー、世界最安値」	
ビジネス	日本経済新聞2019年12月10日	「購買力 賃金やハンバーガー 物差し多様」	
ビジネス	日経速報ニュースアーカイブ2019年12月10日	「価格が映す日本の停滞 ディズニーやダイソーは最安値」	
会 フ	日本経済新聞2021年7月20日	八木陽子「お金の心得、幼少時から」	

問題 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

日本の詩歌のもう一つの特徴は、行動が非常に少ないというか、または、中心となる経験が非常に少ないことである。恋人に会ったとか、恋の喜びとか、そういうことは、まず歌の材料にはならない。恋人が来るのを待つとか、恋人が去ってから、その人のことをなつかしく思い出すとか、つまり始まりと終わりが大切で、真中の個所については沈黙を守ります。それは一種の礼儀かもしれないが、ともかくヨーロッパの詩歌と比べて、真中に相当する経験が不思議に欠けているというほかありません。これは恋人同士の話に限ったことではないのです。

一般的に言いますと、日本の詩歌では豊富な内容よりも余情の方が大切です。余情といえは、始まりとか終わりの方が、余情に富むはずで、『徒然草』のなかに兼好法師が「万の事も、始終こそをかしけれ」と書いた通りです。日本人は、歌を詠む姿勢になると、何か歌の三十一の文字以上のことを伝えたい、という気持ちで確かにあります。ですから、いくら桜の花が好きでも、桜の花のことばかりを詠んではいけません。自分の心境とか自分のわびしさ、何でもいければいい、きつと何か言葉を超えるような感情や感想を間接的に述べていたのです。そして、何でもいさわめて平明な和歌のなかに深みを見つけたことが、日本の長年の読者の一番の楽しみだったと思われまふ。

終戦直後、頼原退蔵という大変優れた国文学者が書いた『余情の文学』という本が発表されました。その題は言うまでもなく日本の文学を指していました。特に歌の場合、満月より三日月の方が詩的だとか、満開の桜よりも蕾の桜や散っている桜の方が詩的だと日本人は伝統的に考えていました。これは『徒然草』に、「花はさかりに、月はくまなきをのみ見るものか」と兼好法師が反語の形で考えていましたが、ヨーロッパ人の多くは、それが反語であることに気がつかないと思います。薔薇を描く時は満開、月を描く時は満月という常識があったと思います。しかし日本の場合、やはり、散った後の桜には余情があるので、花が満開のときよりわれわれの感動に値すると思われていました。こういう考え方が日本の独特の美意識を代表すると思います。しかもそれは歌の場合に限らない。能の場合でも歌舞伎の場合でも、同じような現象が認められると思います。

幽玄ということとは、それと関係があると思います。私は今、二つの非常に——私に言わせると——典型的な日本の詩歌をあげたいと思います。二つともよく知られているものですが、一つは、定家の歌です。

見たせば花も紅葉もなかりけり浦のとまやの秋の夕ぐれ

これは、何の特徴もないような表現だというほかありません。特別に奇抜なイメージもなく、修辭上の面白さも別にありませんが、この和歌から、何か幽玄のようなものを感じない人はまず一人もいないでしょう。そして歌の意味については、いろいろな解釈ができるでしょうが、「花も紅葉もなかりけり」という意味は、やはり、たいいていの人にとって鑑賞するような現象がないということですが、定家が描いた風景には、それがありません。この風景には、花も紅葉もない。何があるかという「浦のとまや」だけです。私たちに「とまや」の方が詩的に聞こえますが、それは鉄筋コンクリートの建物に住んでいる人の心境でしょう。藤原定家にとつては、「とまや」は決して美しいものではなかったでしょう。自分が住みたい所ではなかったはずで、それにもかかわらず、秋の夕暮のよさを知ろうと思えば、やはり、花もない、しかも御殿のようなすばらしい建築もない、わびしい風景が最もふさわしい、最も深く感じさせるものがあると、感じたのでしよう。

これは、墨絵の世界です。花とか紅葉のような鮮やかな色彩の全然ない墨絵の世界には、華やかな世界よりも深みがあると感じられます。絵を描く場合、紅葉を真赤に塗ると、その紅葉は赤に限られてしまいます。どの人を見ても赤いしか見えません。しかし紅葉の絵に紅の絵具を使わない場合、見る人の眼によって描かれた紅葉の色が違ってきます。墨絵は、どんなすばらしい絵具で描いた絵よりも、私たちの想像力に訴える力があると思います。もう一つの例は、芭蕉の著名な俳句ですが、同じような世界が描かれています。

枯枝に鳥のとまりたるや秋の暮

この句には全く色彩のない絵が描かれています。まず、枯枝に色がついていない。鳥は黒いですが、黒は色ではありません。「秋の暮」には二つ意味があり得ると思います。一つは、秋の夕暮という意味です。ちょうど、物の色彩が見えなくなる夕暮です。紅葉とか花の色がわからなくなるときは、暗くなりつつある夕暮です。もう一つの意

1

人間文化学部 日本語日本文学科 小論文(800字)60分

味は晩秋です。秋の季節の終わりごろ。そのときまできれいだっただけ紅葉が散ってしまい、木に葉がなく、鳥のような鳥がいても、鶯はもろい、こういう時期を指していると思えますが、こういう世界では、やはり空白が非常に大切です。空白も、日本の詩歌の一つの魅力であると同時に、それは、日本のすべての芸術の大きな特徴になっています。

まさに反対の効果を得ているのは、メキシコの壁画です。メキシコの壁画には空白は全くありません。あれば、何かなかに描き入れないと、メキシコ人は落ちつかないようです。『Nature abhors a vacuum』(自然は空白を嫌う)というような英語のことわざもありますが、日本の自然はどちらかというと空白を喜ぶようです。空白によって初めて自然を理解できるようになると考えられています。

『古典を楽しむ 私の日本文学』ドナルド・キーン 朝日選書二九三 一九九〇年一月

問 (一) 傍線部「空白も、日本の詩歌の一つの魅力であると同時に、それは、日本のすべての芸術の大きな特徴になっています」とは具体的にどのようなことを指していますか。本文の内容をもとにまとめなさい。(二) あなただけ日本人の美意識における「空白」もしくは「余白」についてどのように考えるか、具体例をあげて述べなさい。(一)と(二)を合わせて八〇〇字程度で述べなさい。

2

人間文化学部 日本語日本文学科 小論文(800字)60分

